

# SUMH News Letter

## 震災特集号

### 1. SUMHとこころのケア

理事長 青木 勉

### 2 震災特集1

東日本大震災における心のケアチームに参加をして

国立国際医療研究センター国府台病院 児童精神科  
小平 雅基

### 3. 震災特集2

東日本大震災 被災地活動報告

総合病院国保旭中央病院神経精神科こころのケアチーム  
伊原 利枝

### 4. 上半期のSUMH現地活動報告のまとめ

5. 映画「僕たちは世界を変えることができない」を観て  
千葉県発達障害者支援センター  
篠原 慶朗

6. 事務局から  
カンボジアに精神保健医療・保健・福祉を教えに行きませんか！

\*\*\*\*\*

## SUMH とこころのケア

SUMH 理事長 青木 勉

長く暑い夏が過ぎ去り、あっという間に冬が到来し日ごとに寒さが増す今日この頃ですが、会員の皆様におかれましては、いかがお過ごしでしょうか。

さる10月1日に東京で開催された第18回日本多文化間精神医学会総会において、当SUMHが学会賞を受賞しました。長年に渡るカンボジアへの精神保健支援を評価されての受賞であり、大変光栄なことです。これもひとえに、会員の皆様の御支援の賜物と深く感謝しております。

前号でもお伝えしましたが、私自身は、東日本大震災で自分の住んでいる千葉県旭市が被災したため、この半年以上ずっと張りつめた毎日を送ってきました。一時的に入院病棟が使えなくなったため、患者様を以前の安全な病棟に避難させ、震災直後からこころのケアチームを結成し、旭市内の避難所や仮設住宅の被災者を訪問していました。残念ながら科長として私は、本丸を守るために訪問には参加できませんでしたが、気持ちはいつも非常時であったよう

に思います。土日祝日の休みもなく、早朝から夜中まで仕事をするしんどい日々の中で、こころのケアについて考えた時、実はSUMHが、10年以上もカンボジアで地道な活動を続けてきていることを再度認識させられたのです。私たちSUMHは、遠く離れた国の人々を思い、活動を続けてきた事実には思い当たりました。そして、この会での経験が、この未曾有の状況乗り越える勇気を与えて下さったと思います。当会の活動が、今も困難な状況にある被災地の人々のこころに少しでも光を照らすことが出来れば、望外の喜びです。



多文化間精神医学会総会において野田文隆理事長から学会賞受賞時の青木理事長（写真左）

## 震災特集

SUMHとしては震災の支援をしておりませんが、何人かの会員が他団体の震災支援に参加しております。今号ではSUMHの活動報告の他に、東日本大震災の体験記や災害支援活動の報告を掲載させていただきました。震災特集1では国立国際医療研究センター国府台病院 児童精神科の小平 雅基先生が石巻市で行った心のケアチームの活動報告を、震災特集2では総合病院国保旭中央病院神経精神科こころのケアチーム看護師の伊原利枝さんが旭市で行った心のケアチームの活動報告を寄稿して下さいました。お忙しい中、快く引き受けて下さり、まことにありがとうございます。（青木 勉 SUMH 理事長／総合病院国保旭中央病院神経精神科主任部長）

## 震災特集1

## 東日本大震災における心のケアチームに参加して

国立国際医療研究センター国府台病院 児童精神科  
小平 雅基

当院では、宮城県の要請を受け心のケアチームとして、3月21日から石巻市での支援活動を開始しました。精神科医師、児童精神科医師、看護師、ソーシャルワーカーの4名で「自己完結型（食料も含め支援チームが完全に用意準備されている）」1チームを作り、切れ目ないように5月一杯まで続けました。6月以降は週に3日の支援を成人の精神科と児童精神科とで交互に行なって行き、10月以降は月に3日の支援を児童精神科のみで行なっております。6月以降の児童精神科チームは常勤の児童精神科の常勤医師と児童精神科のレジデント医師の2人組みでの体制でした。

私自身は4月18日からの1週間の支援を皮切りに現在まで計4回石巻に入っております。4月の第一回目の支援の際は、業務の中心は避難所巡りや戸別訪問といった内容のまさに被災直後から続く支援でありました。街全体も流された車や船が街の道脇に散見できるような時期で、正直私自身今までの人生でそれほどの風景は見たことがなかったので、こみ上げてくる様々な感情を押し殺しながら、一件一件と避難所や自宅を巡って声をかけていきました。実際1週間支援に入った後に帰宅した時には疲労困憊の状態であり、しばらくは何も意欲が出なかったことを覚えております。

支援の内容としては、回を重ねるごとに、①段々

と急性期対応から亜急性期に、②成人中心の対応から児童中心に、③トラウマに関連した相談から実に様々な相談に、と変化して行きました。ただ正直「心のケア」と銘打っての活動ではありましたが、どれほど被災者の方々の心をケアできたかは正直なんとも言えません。私自身今回被災者の方々が体験したような実体験があるわけでもなく、臨床で同様の経験をした患者さんを多数診たことがあるわけでもなく、今まで特にトラウマ関連の臨床を専門としてきたわけでもない、などなど今回の支援で自分を「心のケアの専門家」と思い切れない理由は次々と挙がってきました。そのくらい今回は「心のケアの専門家」と言うことにストレスを感じました。

そのような状況でしたが、我々児童精神科の同僚のなかでいくつか共有していた支援イメージがありました。それは、①出来る限り何でもやってくる、②被災地の行政への文句は言わない、③子どもの支援をする場合にはまず親・教師から、④とにかく自己愛的にならない、といったことだったと思います。と言いますのも、以前中越地震の支援の時にそのようなことがなかなかうまくいかないという記憶があったからです。普通に考えると①から④まで当たり前に思うでしょうが、正直これがうまくいきません。

①に関しては参加する者のキャラクターにもよると思うのですが、やはりかなり騒々しく様々な職種が入り乱れるので、病院での立ち振る舞いでいると医者という職業はつい原則論ばかりを言っている役に立たないメンバーになってしまいます。②はあたりまえのようですが、かなり深刻に問題になります。正直今回も市役所や教育委員会に対して、どう考えてもそのタイミングでは無理な要求を被災者・支援者ともに次々と繰り返していました。仕方がない部分もありますが、やはり心が痛められます。③に関しても「子どもにカウンセリングを」という依頼が飛び交います。これはこれでももちろん大事なのですが、やはり子どもの安定を図る上で、その土台になる親や教師の安定が必須だと思うわけです。なので、子どもの心のケアのために「不適切な教師（もちろん被災者です）」や「駄目な親」をどんと糾弾していくという姿勢には賛成できません。④これはある程度は必要です。多少自己愛的にならないと動けません。そして支援に入れば必ず自己愛的になります。しかしよくよく気をつけていないととても「自己愛的に」なってしまいます。そして異様に自己愛が肥大した人が現れると周囲の人が破綻します。

本当に自分たちが上述した①から④を守りつつ支援が続けられているのか迷いつつですが、現在まで支援を続けています。最近では面接が繰り返される

ケースも徐々に増えてきて、石巻の教師やワーカーの方々とも関係が深まってきているので、少しはお役に立てているかと思っております。

前回訪問した際に会った「学校で非行行動を繰り返す女子3人組」も、「この前来た人たちだよ」とカウンセリングルームで話をしてくれました。学校で消火器をまき散らしたり、耳に巨大なピアスをあけたりしている子たちでしたが、やはり地震以降、母親の彼氏が家に入って来ていたり、お金がなかったりといろいろ大変な状況だそうです。そんな子

もたちに最近よく聞く音楽は何かと尋ねたら、今時の女子風に「恥」「インパクト」「ママごめんね」という3曲がお薦めだと笑いながら聞かせてくれました。この切なさを感じ、問題解決の道を一緒に相談していくことが、結構「子どものこころのケア」の根幹ではないかと個人的には思っています。

今後も様々な支援が被災地に入り、少しでもそこに暮らす人々の苦悩が軽減されればと心から願っています。以上簡単にではありますが、心のケア支援に入った感想となります。

## 震災特集2

### 東日本大震災 被災地活動報告

総合病院国保旭中央病院神経精神科心のケアチーム  
看護師 伊原 利枝

#### 活動目的・・・被災者・支援者のこころのケア

- 1) 被災者に共感的な態度で接し、手をさしのべる。
- 2) 被災者が、心身を休められる環境を調整。
- 3) 被災者の必要なニーズに合わせ、他の職種や機関と連携をとる。
- 4) 被災者と支援者の『いのち』を守る。

活動期間・・・H23, 3, 16(震災発生5日後)～現在に至る。

#### 活動場所 (旭市内)

- ① スポーツの森公園総合体育館
- ② 海上公民館
- ③ 飯岡小学校
- ④ 飯岡保健福祉センター

★H23, 5, 29 ~ 2カ所の仮説住宅(飯岡・旭)

#### 活動メンバー

- ・医師
- ・看護師
- ・臨床心理士
- ・精神保健福祉士
- ・必要に応じ、作業療法士・保健所スタッフ・行政関係者・応援ボランティアも同行。

\*被災者に安心していただき信頼関係を築くためにも、出来る限り同じメンバーで活動する。

#### 被災状況

人的被害				住家被害				
死者	行方不明者	重傷者	中軽傷者	全壊	大規模半壊	半壊	一部員壊	合計
13名	2名	2名	10名	334	424	481	2,069	3,308

#### 避難所

避難所	スポーツの森公園 総合体育館	海上公民館	飯岡小学校	飯岡保健福祉センター	合計
人数	56名	118名	292名	176名	642名


#### 仮設住宅

旭	飯岡
50戸	150戸


 活動内容

## 1) 避難所巡回

日付	避難者数	ケア内容
H23,3,16(水)	642名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「被災された方へ」「被災した子供さんの保護者の方へ」のパンフレットを使用しながら、丁寧に全ての被災者に声をかけていく。</li> <li>・現場スタッフと情報交換しながら、観察や介入の必要な被災者リストを作成し、継続ケアに繋げる。</li> <li>・被災者のニーズを知り、必要な機関や社会資源について情報提供する。</li> </ul>
H23,3,18(金)	343名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「被災された方へ」「被災した子供さんの保護者の方へ」のパンフレットを使用しながら、丁寧に全ての被災者に声をかけていく。</li> <li>・現場スタッフと情報交換しながら、観察や介入の必要な被災者リストを作成し、継続ケアに繋げる。</li> <li>・被災者のニーズを知り、必要な機関や社会資源について情報提供する。</li> </ul>
H23,3,24(木)	327名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難所にいる全ての方に声をかけ、必要時個室にて話を聞く体制をとる。</li> <li>・子供達の目線での不安や困っている事を、玩具や画用紙を持参し、リラックスした環境をつくりながら話してもらう。</li> </ul>
H23,3,29(火)	322名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難所にいる全ての方に声をかけ、必要時個室にて話を聞く体制をとる。</li> <li>・子供達の目線での不安や困っている事を、玩具や画用紙を持参し、リラックスした環境をつくりながら話してもらう。</li> </ul>
H23,4,4(月)	234名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全ての被災者に声をかけながら、精神科介入の必要な方への処方や、表情の変化に注意していった。</li> <li>・身体面で医療介入の必要な方は、他職種との連携を密にし、円滑な対応を行った。</li> </ul>
H23,4,11(月)	248名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全ての被災者に声をかけながら、精神科介入の必要な方への処方や、表情の変化に注意していった。</li> <li>・身体面で医療介入の必要な方は、他職種との連携を密にし、円滑な対応を行った。</li> </ul>
H23,4,18(月)	194名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全ての被災者に声をかける。</li> <li>・処方薬の評価を慎重に行い、継続・変更・中止の判断をしていった。</li> </ul>
H23,4,25(月)	185名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全ての被災者に声をかける。</li> <li>・処方薬の評価を慎重に行い、継続・変更・中止の判断をしていった。</li> </ul>
H23,5,2(月)	175名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療介入している被災者の継続ケアのため、避難所閉鎖後の行き先を明確に把握し、当院での通院を検討する。当院受診困難な方は、近医を紹介する。</li> </ul>
H23,5,9(月)	160名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療介入している被災者の継続ケアのため、避難所閉鎖後の行き先を明確に把握し、当院での通院を検討する。当院受診困難な方は、近医を紹介する。</li> </ul>
H23,5,16(月)	129名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難所閉鎖に伴う不安や問題について聴取し、最善の方法を被災者と考え、実践出来るよう介入していった。</li> </ul>

 H23,5月中旬より避難所から仮設住宅へ移ったため、継続した関わりや、医療介入の必要な被災者には、事前に方向性を提示し、市の職員と情報交換しながら漏れの無いケアに努めた。

## 2) 仮設住宅での活動

日付	内容
H23,5,29(日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>*健康相談会・交流会</li> <li>・健康相談を通じて被災者の状況把握をする。(必要時、医療の介入検討)</li> <li>・仮設住宅入居者同士の交流と、関係の構築を促す。</li> </ul>
H23,6,5(日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>*健康相談会・交流会</li> <li>・健康相談を通じて被災者の状況把握をする。(必要時、医療の介入検討)</li> </ul>



	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仮設住宅入居者同士の交流と、関係の構築を促す。</li> </ul>
H23,6,6(月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>*戸別訪問</li> <li>・定期的なお茶会の案内を配布。</li> <li>・仮設住宅に移ってからの生活や、健康面についての不安がないか等、直接顔を見て状況確認する。</li> <li>・出来るだけ同じメンバーが訪問し、信頼関係を築く。</li> </ul>
H23,6,13(月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>*戸別訪問</li> <li>・定期的なお茶会の案内を配布。</li> <li>・仮設住宅に移ってからの生活や、健康面についての不安がないか等、直接顔を見て状況確認する。</li> <li>・出来るだけ同じメンバーが訪問し、信頼関係を築く。</li> </ul>
H23,6,20(月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>*お茶会・・・おでんづくり</li> <li>・仮設住宅入居者に、リラックスする場を提供。</li> <li>・仮設住宅入居者の、情報収集と問題対策。</li> <li>・県・市町村と連携をとり、情報交換しながら総合的なケアにつなげる。</li> <li>・お茶会を通じて、入居者同士の交流を深める事が出来た。</li> </ul>
H23,6,25(土)	<ul style="list-style-type: none"> <li>*健康相談会・交流会</li> <li>・健康相談を通じて被災者の状況把握をする。(必要時、医療の介入検討)</li> <li>・仮設住宅入居者同士の交流と、関係の構築を促す。</li> </ul>
H23,6,27(月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>*お茶会</li> <li>・仮設住宅入居者に、リラックスする場を提供。</li> <li>・仮設住宅入居者の、情報収集と問題対策。</li> <li>・県・市町村と連携をとり、情報交換しながら総合的なケアにつなげる。</li> <li>・参加者から、今後継続してお茶会を開催して欲しいとの要望あり。</li> </ul>
H23,7,9(土)	<ul style="list-style-type: none"> <li>*健康相談会・交流会</li> <li>・健康相談を通じて被災者の状況把握をする。(必要時、医療の介入検討)</li> <li>・仮設住宅入居者同士の交流と、関係の構築を促す。</li> </ul>
H23,8,20(土)	<ul style="list-style-type: none"> <li>*健康相談会・交流会</li> <li>・健康相談を通じて被災者の状況把握をする。(必要時、医療の介入検討)</li> <li>・仮設住宅入居者同士の交流と、関係の構築を促す。</li> </ul>
H23,9,3(土)	<ul style="list-style-type: none"> <li>*健康相談会・交流会</li> <li>・健康相談を通じて被災者の状況把握をする。(必要時、医療の介入検討)</li> <li>・仮設住宅入居者同士の交流と、関係の構築を促す。</li> </ul>
H23,10,18(火)	<ul style="list-style-type: none"> <li>*お茶会</li> <li>・仮設住宅入居者に、リラックスする場を提供。</li> <li>・仮設住宅入居者の、情報収集と問題対策。</li> <li>・県・市町村と連携をとり、情報交換しながら総合的なケアにつなげる。</li> </ul>
H23,10,26(水)	<ul style="list-style-type: none"> <li>*お茶会</li> <li>・仮設住宅入居者に、リラックスする場を提供。</li> <li>・仮設住宅入居者の、情報収集と問題対策。</li> <li>・県・市町村と連携をとり、情報交換しながら総合的なケアにつなげる。</li> </ul>




仮設住宅では、特に独居の方々が閉鎖的な環境下での生活となるため、熱中症予防等に十分気を配り、介入に努めた。

3) 地域の民生委員・保健推進委員への講演と相談会


日付	場所	内容
H23,8,24(水)	旭市役所干潟支所	*「災害後の心の健康について」
H23,9,6(火)	旭市役所飯岡支所	*「災害後の心の健康について」

H23,9,9(金)	飯岡保健福祉センター	*「災害後の心の健康について」
H23,9,12(月)	飯岡保健福祉センター	*「災害後の心の健康について」
H23,9,14(水)	旭市役所海上支所	*「災害後の心の健康について」
H23,9,16(金)	飯岡保健福祉センター	*「災害後の心の健康について」

 各地域に密着した関わりをしている方々へ、講演や相談会を行い、早めの介入の大切さと、PTSDの評価等を伝えていった。

#### 4) 外来でのケア（震災前より外来通院中の患者様は含まず）

日付	年齢	性別	内容
H23,3,22	60	男	・震災後より食欲低下・活気なし・不眠→抗うつ薬・眠剤
H23,4,7	57	女	・震災後より不眠→抗うつ薬・眠剤
H23,4,14	12	男	・震災後より不安強く不登校→抗不安薬
H23,4,19	11	女	・震災後より食欲不振→抗不安薬
H23,4,22	75	男	・震災後より不安強く、不眠→抗うつ薬
H23,4,28	9	女	・震災後より夜泣き・夜尿・情緒不安定→抗不安薬
H23,5,13	39	女	・震災後より不眠で異常行動→安定剤・眠剤
H23,5,19	27	女	・震災後より気分変調と不安（南相馬市より銚子に転居）→安定剤
H23,5,20	47	女	・震災後より食欲不振・不眠→抗不安薬・安定剤
H23,5,23	71	女	・震災後より過覚醒・再体験症状・感覚過敏→抗うつ薬
H23,5,25	66	男	・幻覚・意識障害あるも諸検査にて脳血管障害否定（南相馬市より旭市に転居）→抗うつ薬
H23,6,20	67	女	・震災後より食欲不振・不眠・脱力感→抗うつ薬・抗不安薬・眠剤
H23,7,4	48	女	・震災後より不安強い→安定剤
H23,7,29	8	男	・風を怖がる→診察継続とし経過観察
H23,8,1	65	女	・震災後より不安強く、動悸・肩こり・倦怠感・不眠→安定剤
H23,8,1	52	男	・震災後より不眠→抗うつ薬・眠剤
H23,8,1	73	女	・震災後より不眠・抑うつ→抗精神病薬・抗うつ薬
H23,9,5	64	男	・震災後より胸痛等不定愁訴→抗不安薬
H23,9,5	30	男	・震災後よりパニック・強迫→抗不安薬
H23,9,5	64	女	・震災後より不眠→眠剤
H23,9,6	6	女	・震災後より情緒不安定→診察継続とし経過観察
H23,9,27	12	男	・震災後より情緒不安定→診察継続とし経過観察

 当院では、被災後の方専用外来を設置し、迅速な対応をしている。今後も、「こころのケアチーム」の活動を充実したものとし、被災者支援に努めていく。

## 上半期のSUMH現地活動報告のまとめ

SUMH のカンボジアの精神保健を支える活動は Siem Reap の州病院と Angkor Chum に新しくできた総合病院(2010年から)で月2回外来診療を行っています。毎月ごとの報告は、カンボジアから Report されてきています。今回は2011年4月から9月までの6か月間の月次報告書から、リハビリテーションや訪問支援・精神科コンサルテーションの実施総ケース数について報告します。

### SUMHの実施総ケース数の報告

Siem Reap と Angkor Chum の病院でのケースを新患と継続に分け、各月の数を表にまとめました。(表1、表2参照)

#1: Siem Reap								単位: Case
	April	May	June	July	August	September	Total	
New Case	22(10)	10(4)	16(9)	16(6)	13(5)	7(3)	84(37)	
Follow up Case	74(32)	101(46)	97(48)	106(50)	104(43)	93(41)	575(230)	
Total	96(42)	111(50)	113(57)	122(56)	117(48)	100(44)	659(297)	

※( )内は男性のCase数

#2: Angkor Chum								単位: Case
	April	May	June	July	August	September	Total	
New Case	9(1)	8(0)	16(5)	12(3)	16(4)	24(5)	85(18)	
Follow up Case	79(31)	37(10)	77(24)	77(31)	52(19)	75(21)	397(136)	
Total	88(31)	45(10)	93(29)	89(34)	68(23)	99(26)	482(154)	

※( )内は男性のCase数

表1ではSiem Reap州病院で行われているSUMHの活動で対応した毎月のケース数をまとめました。毎月平均100ケースに対応しています。4月から9月までの対応総ケース数は659ケースで、そのうちの約45%は男性で297ケースでした。女性の方が約10%多い結果でした。

表2ではAngkor Chumで行われているSUMHの活動で対応した毎月のケース数をまとめました。こちらは5月が45ケースと少ないものの、その他の月は平均80ケースに対応しています。4月～9月までの対応総ケース数は482ケースで、そのうちの約32%は男性で154ケースでした。こちらは女性の利用が68%と、男性の約2倍多い結果となりました。また、この表からはNewCase(新患)が月を追うごとに増えていることもわかります。

### SUMHカンボジアの自立支援について

2か所の地域での精神保健活動について新患と継続を合わせた毎月の対応総ケース数は一定数を保って推移しています。今のところは女性の受診が男性よりも多いようです。少しずつではありますが、地域でのSUMHの精神保健普及活動の効果が出てきているように思われます。今後はこの活動がカンボジアの人たちによる自立的な活動になっていく必要

があると考えています。Angkor Chumの事業については順調に診察件数が増えていることから、いずれは病院から診察料の何パーセントでもいいからもらうことが自立の突破口になるのではないかと考えています。自立を目指すためには、現地に折衝に行く必要も出てくることになります。

また、こうした現地主導での精神保健活動を継続してゆくために、現地スタッフの人数を増やしてゆくことも必要です。人を増やす場合は定期的な教育・研修の場を設けることも必要になるでしょう。

### 下半期の活動について

昨年度は窪田理事と東田さんが2月にカンボジアSUMHを訪問し、現地スタッフの活動に同行支援してまいりました。その報告は前号のニュースレターにて掲載されています。

本年度は、下半期中にカンボジアSUMHを訪問し、今後の自立活動を目指す活動計画を現地スタッフと協働して策定する準備にとりかかりたいと考えています。(以上、理事会まとめから報告:文責 篠原慶朗)

### 映画

「僕たちは世界を変えることができない」を観て

千葉県発達障害者支援センター  
篠原 慶朗

カンボジアに小学校を建てた大学生の手記をもとに作られた映画が上映されるということで9月23日の公開初日に観てまいりました。この映画はドキュメンタリー手法で撮られており、映画を観た方々はスクリーンを通してカンボジアの現状について知ることができると思いました。ここで簡単にストーリーを紹介しておきます。単調な毎日に飽き飽きとしていた主人公の甲太(医大生)は、たまたま立ち寄った郵便局で150万円あればカンボジアに小学校が建てられることを知ります。そこから甲太の日常が大きく動き出してゆきます。仲間を集め募金活動をしてゆく甲太。その過程で自分たちが小学校を建てるカンボジアのことを何も知らないことに気づき、カンボジアを訪問することになります。甲太たちはカンボジアの地でポル・ポト政権下での収容所跡地や大量虐殺が行われた「キリングフィールド」を訪れ、過去にあった凄惨な事実を知ります。驚愕のあまり言葉を失い戸惑う甲太たち。更にはカンボジアの厳しい現実を目の当たりにして、打ちのめされることに。悩み、苦しみ、出した結論は映画のタイトルとなった「僕たちは世界を変えることができない」



という結論でした。しかし、そこから彼らの本気が始まったのです。映画のラストシーンでは甲太たちの真っ直ぐな気持ちに共感し、感動のあまり涙してしまいました。

私はこの映画を観終ってから、2009年11月にSUMHが主催するカンボジアスタディツアーへ参加した頃のことを思い出しました。当時、私はカンボジアへ行く前に、この映画の原作となった「僕たちは世界を変えることができない(葉



僕たちは世界を変えることができない。  
I WANNA BUILD SCHOOL

文/葉田甲太  
写/高橋謙一(長野県)



写真: 葉田甲太 著: 自費出版 2008

田甲太 著: 自費出版 2008/小学館 2010)」

を手にしていました。予備知識としてポル・ポト政権時代の書籍も読んでからカンボジアに入ったのですが、その当時、現地に入り感じたことは甲太たちと同じであったと記憶しています。現実を目の前にして「僕たちは世界を変えることができない」という気持ちになったのです。それから2年が過ぎ、悩みながらもSUMHの活動に参加している私がいま。もちろん今でも「世界を変えることができない」と思っているのですが、それでもこの活動に携わろうとしているのは、理事の皆様の10年に渡るカンボジアでの精神保健の普及活動(SUMH10周年記念誌にてその詳細を確認できます。問い合わせは事務局まで。)に感銘を受けたことと、そして何よりも「カンボジアという国を知った以上は知らないふりや忘れることはできない」という気持ちになってしまったからだと思います。もしかしたらこの気持ちはカンボジアに行った人であれば誰もが抱く心境なのかもしれません。11月でSUMHの活動に参加して丁度2年目になる現在、今の私は「例え変えることができなくとも、忘れずに関わり続けることが大切である」と思いながら活動に参加しています。

映画の上映は終わってしまいましたが、来年にDVDで発売された際には、カンボジアに興味のある方はご覧になることをお薦めいたします。

また、来年度になります。SUMHではこの映画とは別のカンボジアの現状を撮影したドキュメンタリー映画の上映会やカンボジアスタディツアーを計画しています。詳細が決まりましたら、HPやチラシ等で告知をいたしますので、お友達を誘って皆様にご参加くださいますことお待ちしております。

## カンボジアに精神医療・保健・福祉を教えるにいきませんか!

当NPO法人SUMHでは、アンコールワット遺跡の近くの街シェムリアップのシェムリアップ州病院の精神科外来隣に「メンタルヘルスセンター」を運営しており、外来医療と連携して精神科デイケア及び訪問活動を実施してきました。更に2010年からは、シェムリアップから70キロ奥地の草原の街アンコールチュムに新しくできた総合病院内にSUMH精神科外来を設立し、月2回外来診療を行っています。

こうした精神科実践を維持し発展させるためには、定期的な教育・研修が必要です。日本の精神科医療・保健・福祉に携わっている皆さんにカンボジアの精神科医療等の発展に寄与していただきたくお願い申し上げます。

**方法** 任意の可能な日を提供していただき、現地に

少なくとも2日間滞在し、各自の専門分野に付き少なくとも1単位の講義か研修を実施していただきます。

**参加資格** 日本の精神科医療等で働いている専門家。SUMHの会員(入会可)

**報酬** 基本的にボランティアです。ただし、旅行傷害保険に加入していただくために、会から1万円を支給します。

**言語** 英語かカンボジア語です。原稿を用意して行く方法もあります。

**利点** 現地のSUMHスタッフが歓迎いたします。

一般の旅行では見ることのできないカンボジアの精神医療の現場が見られます。

**申し込み方法** SUMHの理事もしくは事務局に申し込んでください。理事会で検討して受け入れを決定します。





\*\*\*\*\*

\*\*\*\*\*

**SUMH Cambodia**

*Actual Address:*

Mental Health Rehabilitation Center,  
in Siem Reap Provincial Hospital,  
Mundol Moi, Siem Reap, Cambodia

*Postal Address:*

P.O.Box 93102 G P O Siem Reap Angkor,  
Cambodia

\*\*\*\*\*

**SUMHの会員として、また募金によって  
一緒に途上国の精神保健を支えてください。**  
【年会費】一般 10,000円 賛助・学生 5,000円  
【会費・募金の振込先】

**銀行振り込みの場合**  
銀行名;千葉興業銀行 旭支店  
口座名;途上国の精神保健を支えるネットワー  
ク  
理事 青木 勉  
口座番号;普通 1031181

**郵便振替の場合**  
加入者名;途上国の精神保健を支えるネットワ  
ー  
ク  
口座番号;00170-2-535294

郵便振替は振替用紙に、住所・氏名・Tel & Fax・  
E-mail・会費と募金のいずれか・SUMHへ一言を明  
記の上、お振り込み下さい。

\*\*\*\*\*

**SUMH日本事務局**

〒130-0013 東京都墨田区錦糸3-5-1エクセル錦糸  
北口ビル

TEL 03-3812-0736

**HP:** <http://sumh.org>

\*\*\*\*\*

**事務局からのお願い**  
支援活動に必要な年会費の納入をお願いいたし  
ます。年会費を納入いただいた方にはカンボジア  
地域精神保健プロジェクト開始10周年記念誌「ア  
ジアに心のサポートを」を1冊進呈いたします。



写真:「アジアに心のサポートを」(SUMH10周年記念誌)